

投下資本の情勢とプラントと工業との集團を
動員することが困難な爲めである。輸送機關の
改善は鐵鑛の如くカサ張るものをも尙ほ地球上
の遠隔地點まで普及させることになる。(未完)

新著紹介

○石橋博士還曆記念論文集 京大地理學教室編輯

古今書院發行 特價九圓

京大地理學教授石橋博士が還曆で退職されたのを記念して
地理學論叢の第八輯を特別にその記念號としたものである。
集むるところ凡三十四篇、すべて先生の門下生の記念論文で
ある。最初に先生の近影、同博士論著目錄をのせ、巻頭我國地
理學界の回顧と題して博士の關係された新しい地理學界の趨
向を明にされた外に、中野竹四郎氏の滿洲初期の貿易と地理、
内田寛一氏の農村の戸口と土地、田中秀作氏の漢族商人、下川
禮佐氏の阿片戰爭まで、藤田元春氏の日本人の航海用早鏡盤、
小牧實繁氏の氣山津の變遷、小野鐵二氏のアピアンヌ、入江久
夫氏の滿蒙の開拓地域、宮川善造氏の溫泉聚落研究、村林繁
樹氏の日本工業の地理的考察をはじめ新進の俊才が二十二名
辯を並べて其蘊蓄を傾け細説詳議まことに近來での大論文集
の姿を具へた。人文地理學的論說が多いので、之を讀むに骨
も折れることゝ考へるけれどもこの種の論考はどうしても理

を窮して餘韻をのこさないところまで進まねばならない、
自から長くもなるし分量も尠大する。そこでかゝる大冊子菊
版八六八頁にもなつたのは止を得ないであらうが、これをこ
の定價で引き上げた古今書院にも勇氣がある。我等はせめて
この出版物が洛陽の紙價に影響しないとしても、多くの學界
に注目されるところの多からんことを祈らざるを得ない。

地理の論叢の出版數が段々と少くなるといふやうなこと
は斯學の前途も心細くなる。これは御互に相いましめて、出
來る限り之を購讀して、この種の書籍が生命をもつやうにし
たいものだと思ふ。肩のこらぬ安値一點張りの雜誌とはちが
うのだから、讀者も亦その氣になつて之を發達させるやうに
してほしい。これは獨り筆者のみの希望ではないであらう。

(藤川)

○支那工業論

有澤辰巳編 改造社發行 定價三圓

天津の南開大學の附屬研究機關として一九二七年に經濟研
究會が生れたが博士方顯廷及何廉二氏の努力によつて一九三
一年以後二十五篇の研究報告を出して業績見るべきものがある。
一九二九年日本京都で開かれんとする太平洋會議に提出
するために書かれた支那の工業化の程度と影響の一篇をはじめ、
支那の農村工業、北支の農村織物業と問屋、北支農村工業
の發達と衰頹の三章の如きは、いかに北支那の農村が疲弊し
てゐるかを語ると共に保定府に近い高陽の農村家内工業を中
心とした機業の發展とその轉落を説明したものであり、同じ

く河北の寶坻縣の手續綿織業が天津から熱河への交通線にあたるために一時熱河地方への綿布供給線となつた時代の興亡をつけてゐる。山東省濰縣の有力な家内工業の生産の進出なども記されてゐるが、我等はこれを讀むことによつて、交通や政治や海外資本の影響と國內工業地が浮沈して止まらないう經濟波浪の姿をまざまざしく教へられる。第五篇には支那の綿業が解剖されてゐていかに政治の不安定がこれを阻害してゐるかを明にし、第六篇支那に於ける産業資本の題下では外國資本の侵入と支那資本が比較的公平に論述されてゐる。何としても支那は廣い、内亂未定の間にも各地到る所に多くの工業が發生して止む時がない。けれども優秀な外國智識と豊富な外國資本の前に支那の在來の工業はどうしても勝つことは出來ない。方顯廷氏は教育の必要をのべて、高陽の機業が存続したのは袁世凱の時の教育工業學校の卒業生が業に就いたからであり、寶坻の機業の全滅したのは、全く無智の商人の投機によつたからであるとのべてゐるが如き正しき認識の上に立つてゐるのを多とする。我等は本書によつて隣邦支那の復興する意氣の存することを感じ、讀者にその一讀をすすめ。(藤田)

○地理學小辭典

古今書院發行 特價二圓三十錢

さきに地學辭典を出した古今書院は勇を鼓してこゝに再びこの小辭典を世に送つた。今度はその編纂の主任を明にしないて編輯部からの出版にした。日本や支那での地理學語とし

て集めらるべきものはまだまだ多數であるが、さしあたり現在の日本地理學の教科書に出てくる名題は殆ど網羅されてゐるのがうれしい。思ふにかうした辭典をつくるには、誰れか適當な人があつて和漢の書に現はれてくる地理學語を最初に調査しなくてはならぬ。さうして如斯き事業は一人の力の及ぶところではないから、大學あたりの研究室でやつてもらふやうにした。同時に外國の地理學辭典を翻譯するのと並行に之を綜合したい。いづれにしてもかうした辭典が追々と世に出現することは學問の進歩であるとして慶賀せざるを得ない。(藤田)

○昭和財界史

朝日新聞社發行 定價二圓五十錢

菊版六二八頁非常時日本の財界が昭和以來いかなる道程にあるか、非常時の狂瀾怒濤は國民經濟力の充實を以てして之を切ぬけねばならない。昭和十年間の前半期の世界的不況から、どうして日本は切りぬけたか、我國が單なる生糸輸出國の境地から名實共に世界の商工業國として擡頭したその足跡をこの一冊にまとめることは、蓋し至難である。けれども我等は本書によつて日本のあらゆる産業躍進の正しき認識に導かれる。蓋し我封建制政治の作用にもとづく國民の才能が美術工藝へ集中した結果事物を物質的に觀察するのみでなく同時に精神的にも之を考察する國民訓練が出來て素質が出來てゐた。そこへ白人の世界主義の高調によつて展開した政治的、經濟的非常時の刺激をうけて、この傳統的訓練が更らに

強化されて、今日の産業立國となつたのである。

幸なことに日本は國土は狭いけれども主要食料品は殆ど自給自足し、就中米は日本米と呼ばるゝ純日本食料であつて、しかも特殊の國內商品であるために世界政策から獨立して、國內景氣を統制する可能がある。同時に國內經濟が單純であるから國民生活も簡素である。かうした實力で今や歐洲に集中した世界貿易が將に分散せんとする時代の先頭にたつことを得たのである。蓋し我地理的位置の恵まれてゐることは全く天與とでもいはねばならない。しかも世界は永い平和の間に商業は供給不足を補ふ程度に止まつたが、大戦後は之に反して經濟國家主義となつたため、英佛以下歐洲諸國は生産施設の更新に苦み、いままでの生産施設の過剩に當面、苦心してゐるが、我國はまだそこまで進歩しないであつたから、こゝで容易に最新式の生産施設をなして新産業創設の機運に乗ずることが出来た。

かうした大勢を理解して、はじめて日本の經濟地理がわかるのである。本書を多くの讀者にすゝめんとするのも本書が簡單によくこの要領を得てゐる點に存する。(藤田)

雜報

○英國の蜂蜜

英國生産の蜂蜜には正確な統計がないので不明であるが一九二五年英蘭ウエールズで二萬所蘇格蘭で

千九百所であつたが、一九二九年に英蘭ウエールズで三萬四千所（インディペンデント）になつたから、蘇格蘭を一九二五年度と同様とみて三萬五千九百所の國內産出がある。處が一九二五年の蜂蜜の輸入は凡四萬七千所であり一九二九年に九萬七千所である。輸出や再輸出は六千所程度であるから英國の國內消費額は一九二五年に比し一九二九年には倍額に達したといへる。但し一九三二年英國當局者は英國の蜂蜜は生産高三萬所正味輸入七萬所であると報告してゐる。一人當り半封度の消費である。即ち十萬所を消費して其内三割は自給、七割は輸入品である。

輸入國はカナダ、一萬七千所、英領西印度一萬六千所、米國一萬三千所、其他ニュージールランド・濠洲・政馬・サントミンゴ・智利等から五千所内外を輸入する。

消費の方面はA家庭で食ふ。B藥品又はパン製造者の消費C料理方面の消費で其重要なるは家庭方面の消費である。鎮咳劑として蜜の純精なものをとるが、一般に止咳劑、緩和劑として用ひ、風味用として料理に用うる。さうして其消費は年々増加する、智利産は流動性にとむ。製薬後もかたまらないので、藥劑の七四%までは智利の蜂蜜を使用する。

糖菓製造材料としチョコレート、ヌーガーに使はれる。キヤラメル、結晶ゴム、クリウム、パステル等に利用され糖菓に蜜を加へると甘味が増すといふことである。しかし現在では蜂蜜を菓子に用ふる方面はあまり増進してゐない。多くの人が節儉してゐるのである。パンの味を良くし、軟味を與へ